

市民意見の募集結果について

1 募集期間

平成28年8月31日（水）～平成28年10月3日（月）

2 御意見数

意見者数：44人，意見総数：58件

3 御意見をいただいた方の属性

(1) 年齢

20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	合計
0人	0人	0人	3人	2人	3人	14人	20人	2人	44人

(2) 性別

男性	女性	不明	合計
19人	21人	4人	44人

(3) 居住地

京都市	京都市外	不明	合計
44人	0人	0人	44人

4 御意見の内訳

項目	意見数
高齢者の居場所，老人クラブハウス，老人いこいの家について	30件
老人福祉センターについて	8件
全体・その他	20件
合計	58件

5 御意見の要旨と御意見に対する本市の考え方

別紙のとおり

「生きがいつくり支援施設等の今後の基本的なあり方について（案）」に関する
御意見の要旨と御意見に対する本市の考え方

1 高齢者の居場所、老人クラブハウス、老人いこいの家関係

No.	御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
1	今後、健康長寿サロンとして数が増え、内容も豊かになりそうなので期待している。	3	<p>これからの介護予防は、機能回復訓練等だけではなく、地域の中で生きがいや役割を持って生活できるような通いの場や出番づくりなど、元気な高齢者をはじめとする地域住民が主体となって、地域での支え合い活動の裾野を広げていくことが重要となります。</p> <p>本市が、介護予防の取組として実施している高齢者の居場所（以下「居場所」と表記）については、身近な地域で多様な団体等により設置が進められており、今後総合事業で提供する通所型サービスの補完的な役割を果たすことや、持てる能力に応じて役割や出番を持つことで、自身の介護予防や生きがいつくりにつなげていくことが期待されます。</p> <p>このため、居場所と、同じ通いの場である老人クラブハウス、それに本市が公の施設として設置している老人いこいの家を、健康長寿サロンとして統合し、今後身近な場所でのより多くの参加者や通いの場の拡大に努めていきます。</p> <p>サロンが新設・継続しやすくなるよう、また、高齢者の孤立化や閉じこもりの防止等にも資するよう、取組事例集を作成し、運営のノウハウや好事例を紹介していきます。併せて、サロンの運営主体間の情報共有、関係機関との連携等、質的な底上げと多様化にも取り組んでいきます。</p>
2	人とのつながり、おしゃべり、情報交換の場があること等がどれほど大切か、毎日実感している。	2	
3	いつも楽しい一時を過ごしている。毎日楽しい余生が送れるよう、御支援願いたい。	1	
4	筋トレやゲームのほか、心身のふれあいや会話など、居場所の機能を高め、多様化することが求められている。	1	
5	閉じこもりがちな男性高齢者が参加しやすい場所やプログラム等が必要。	1	
6	高齢者の閉じこもり防止は、60歳代、70歳代、80歳代の年齢別に検討が必要。	1	
7	段差のない階段のない土足のまま行ける居場所がほしい。	1	
8	居場所についてはこれまで通りで十分である。	1	

9	健康長寿サロンの内容が見えてこない。	1	健康長寿サロンについては、今の居場所の取組内容を基本として、同じ通いの場である老人クラブハウス、それに公の施設として廃止した後の老人いこいの家における取組を含むものとして、現行の居場所に関する要綱等を踏まえて、具体的な要件等を定めていきます。御意見については、今後の事業運営の参考とさせていただきます。
10	居場所の助成金を増額してほしい。助成要件を緩和してほしい。	5	
11	居場所として使える会場の確保に協力してほしい。	3	
12	居場所として地域の自治会館を活用できないか。	1	
13	居場所の開催日・内容を記載したマップの作成と相談窓口の設置を。	1	
14	老人クラブハウスとして使っている建物の耐震性が不安なので、耐震強化してほしい。	1	建物の耐震強化については、建物の所有者等に相談してください。
15	老人いこいの家は利用者が少なすぎて税金の無駄遣いだと思う。すぐにでも自主運営にすべき。	1	公の施設として本市が設置している老人いこいの家は、住民主体の通いの場である居場所や老人クラブハウスと比べ、1回当たりの利用者数に大きな差はありませんが、1箇所当たり約2百万円と多額の経費を要しています。このため、公の施設としては廃止した後、今の指定管理者等の理解を得ながら、今の場所で健康長寿サロンとして引き続き運営していただけるようにしていきます。
16	老人いこいの家が健康長寿サロンに統合されると、いままで通り利用できるか、不安がある。	3	
17	老人いこいの家を利用しているが、自分にもできる単純作業があれば空いている時間にさせていただきたい。	1	行政主体から住民主体の取組への移行により、健康長寿サロンの中で、例えば当番等、利用者の方に役割をもっていただくことで、サロンの円滑な運営や御自身の介護予防にもつながっていくことが期待できますので、御協力をお願いします。
18	老人いこいの家の和室を洋室にしてほしい。	1	本市では、老人いこいの家として供用している建物の原状を変更する考えはありません。
19	いずれの施設も特定の利用者だけでなく、誰でも自由に使えるようにしてほしい。	1	身近な場所でのより多くの参加者や通いの場の拡大に資するよう、健康長寿サロンへの統合に当たっては、例えば集団に属していない方や、集団での活動に参加しない方でも気兼ねなく通えるような配慮等をお願いすることも検討していきます。

2 老人福祉センター関係

No.	御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
20	担い手養成に、老人福祉センターを活用することは必要な取組であり、生きがいづくり等にもよいことだが、実際の活動に結び付ける仕組みづくりが必要。	1	平成28年5月から各区単位で配置した「地域支え合い活動創出コーディネーター」の活動等を通じて、担い手の養成と支え合い活動への参加等の促進に努めていきます。
21	介護予防推進センターとの連携による取組を増加させることにより、各行政区で差が生じないように工夫が必要。	1	第一種老人福祉センターが実施している介護予防教室等について、段階的に縮小する一方で、介護予防推進センター等、実績とノウハウのある団体との連携による介護予防の取組を増やしていきます。したがって、現行の介護予防事業の質的な低下は想定していませんが、御意見については、今後の事業運営の参考とさせていただきます。
22	閉じこもり傾向にある後期高齢者を対象とする「生きいきサロン」があるのはよいことだ。	1	主に閉じこもり傾向にある後期高齢者を対象とする「生きいきサロン」については、引き続き取り組んでいきます。
23	筋トレ教室は、参加者に体力差があるので、65歳以上か70歳以上にしてほしい。	1	御意見については、今後の事業運営の参考とするため、筋トレ教室の主催者等にお伝えします。
24	老人福祉センターもあり方の転換が必要。「老人」「福祉」という言葉を使わずに、シニア層が活動する場であることを周知することや、名称変更・愛称等の工夫を。	1	今回の見直しは、老人福祉センターのあり方を根本的に改めるものではありませんが、御意見については、今後の事業運営の参考とさせていただきます。
25	老人福祉センターをもっと増設し、職員も増員してほしい。	1	本市では、市内に17箇所の老人福祉センターを設置し、多くの元気な高齢者を中心に、1日平均121人（延べ60万人余）の方に御利用いただいています。
26	老人福祉センターの同好会等でお世話になり、感謝している。	2	介護予防はもとより生きがいづくりにも資する取組として、高齢者が身近で気軽に集える、住民主体の居場所づくりに積極的に取り組んでいること等から、老人福祉センターを増設する考えはありません。また、老人福祉センターの職員数については、施設運営に必要な人員が確保できるよう本市が指定管理料として支出を行っており、指定管理者において、適切な職員体制を確保しています。

3 全体・その他

No.	御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
27	60～70歳代は現役の方も多く、担い手となって役割をもってもらうのは困難も多い。	1	これからの介護予防は、機能回復訓練等だけではなく、地域の中で生きがいや役割を持って生活できるような通いの場や出番づくりなど、元気な高齢者をはじめとする地域住民が主体となって、地域での支え合い活動の裾野を広げていくことが重要となります。また、元気な高齢者が地域の支え手として活躍することで、高齢者自身の介護予防につなげていくことが期待されています。
28	高齢者が若い世代の手助けをすることに生きがいを感じるような施策を。	1	
29	ボランティアをしているが、人とのふれあいにより、自分自身も生きがいを得ることができ、感謝している。	1	
30	リタイア後、居場所等の活動に参加を望む人に対する講習会を開いてはどうか。	1	本市では、本年11月から、元気な高齢者をはじめとするボランティア経験のない方等を対象に、「高齢者支え合い担い手養成研修」を実施し、居場所をはじめ多様なサービスの担い手として養成していきます。
31	社会福祉協議会のボランティアコーディネートの業務拡大を。	1	社会福祉協議会のボランティアセンターでは、地域住民等による高齢者等を対象とする福祉ボランティア活動等を支援するため、活動に関する情報提供等を実施されています。
32	住民同士が助け合えるよう、自治会を支援してほしい。	1	平成28年3月に改定した地域コミュニティ活性化推進計画に基づき、京都が誇る「地域力」を未来に引き継ぎ、地域住民が支え合い、安心して快適に暮らすことができる地域コミュニティを実現するために、自治会・町内会、事業者等との連携の下、地域活動を支援する取組を進めています。
33	パブリックコメントより各施設の担当者と利用者等がいろいろと話し合う機会等を作るべき。パブリックコメントの意見はどう反映するのか。	2	広く利用者等の御意見をお聞きするため、居場所、老人クラブハウス、老人いこいの家、老人福祉センター等に、本市案に関するパブリックコメントの冊子を配布したところです。今後、パブリックコメントの結果等を踏まえて、順次取組を進めていきます。

34	本市の総合事業案に賛成します。	1	本市では、総合事業において、「自立支援と介護予防の推進」、「高齢者のニーズに対応した生活支援サービスの充実」、「多様な担い手の活躍（生活支援の担い手の裾野の拡大）」を目指して取り組んでまいります。
35	高齢者の施設の場所や内容等が十分伝わっていないのでは。PR不足を感じる。	2	高齢者の施設等については、高齢者のためのサービスガイドブック「すこやか進行中」や本市のホームページ等で紹介していますが、今後ともより効果的な広報・周知について検討していきます。
36	元気な高齢者が参加できる、プールやジム、喫茶室もあるような施設がほしい。	1	本市では、プールやトレーニングルームを備えたヘルスピア21を設置しておりますので、他の民間施設等と併せて御活用ください。なお、65歳以上の方には割引料金（プール等の利用料金）が適用されます。
37	温泉又は湯のあるいこいの場所がほしい。	1	本市では、大浴場を備えた老人保養センターを設置しておりますので、他の民間施設等と併せて御活用ください。
38	バーベキューや軽いスポーツ等、屋外での取組ができる高齢者専用の場所がほしい。	1	本市では、高齢者専用のアウトドア施設を設置する考えはありませんので、他の民間施設等を御活用ください。
39	文化会館等を高齢者の発表会等で使用するときのシルバー割引等を検討してほしい。	1	本市が設置する施設の利用に当たっては、条例で定める使用料等を負担していただく必要があります。なお、発表会等には使用できませんが、元離宮二条城（入城料等）、市動物園、市美術館（本市主催展、本市共催展のうち共催者の協力が得られた展覧会等）、無鄰菴、岩倉具視幽閉旧宅は、条例の規定により、市内に住む満70歳以上の方は無料で入場していただけます。また、ヘルスピア21では、65歳以上の方に割引料金（プール等の利用料金）が適用されます。

4 0	介護予防推進センターの介護予防教室への送迎サービスを。	1	介護予防推進センターは、要支援・要介護認定を受けていない方を対象としてサービスを実施していますが、サービス利用者のうち、居住地が遠隔地等で通所が困難な方については、送迎を行う場合があります。詳しくは、お住まいの地域を担当する各介護予防推進センターにお問い合わせください。
4 1	通所介護に、介護予防短期機能訓練プログラムの導入を。	1	本市では、平成29年4月から実施する総合事業において、デイサービスセンター等により、週2～3回、専門職が運動指導を行うことで、要支援者等の身体機能の向上とセルフケアの習慣づくりを支援する「短期集中運動型デイサービス」を新たに設けることとしています。 「短期集中運動型デイサービス」は、要支援者又は「介護予防・生活支援サービス事業対象者」（基本チェックリスト該当者）を対象とし、原則3箇月間の利用で、1回の利用時間は1時間～1時間半程度を想定しています。
4 2	介護保険の未利用者に払い戻しや商品券を支給すると、健康維持の意識が高まる。	1	介護保険制度上では、左記のような事業は実施していませんが、京都府において、過去10年間介護保険サービスを利用していない満90歳の高齢者に対し、商店街等が発行するプレミアム付き商品券を交付する「健康長寿応援券交付事業」を現在実施されています。
4 3	85歳以上の方には、行政から贈り物をしてはどうか。	1	本市では、多年にわたり社会に貢献されてきた高齢者に対し、敬老の意を表するため、毎年度100歳になれる高齢者の方に、敬老記念品を贈呈しています。
4 4	四条通のように歩きやすい道にすべて見直してほしい。	1	「「歩くまち・京都」交通バリアフリー全体構想」に基づき、高齢者をはじめ、すべての人が安心・安全で円滑に移動できるよう、駅や周辺道路等のバリアフリー化の取組を進めるとともに、道路の維持管理等を行う際には、可能な限り、バリアフリー化を図るよう努めています。